

現行



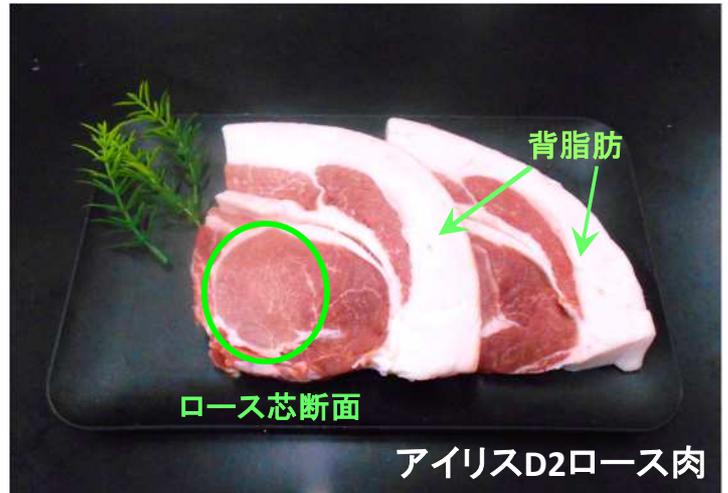
アイリスナガラ
(2007完成)

交代



新

アイリスD2
(2025完成)



アイリスD2ロース肉

ロース部位が大きく、食べごたえ十分

(ロース芯断面積：40cm²、全国平均：33cm²)

ほどよい脂の入りでジューシー

(筋肉内脂肪含量：3.4% → 4.3%)

※目視評価による抽出調査結果

指標	背脂肪厚*1	一日平均増体重*2	ロース芯断面積*3
	(cm)	(g/日)	(cm ²)
アイリスナガラ	1.9	1,016	40
アイリスD2	1.6	1,023	40

*1 厚いと格付けが下がりやすくなる *2 発育の早さ *3 ロース肉の大きさ

愛知のおいしい豚肉を支える「アイリスD2」完成！

高品質な豚肉生産のため、3つの品種を順に交配した三元肉豚が広く利用されています。愛知県は都道府県で唯一、三元肉豚の親となる3品種すべての系統豚を、自県で供給しています。

系統豚は開発後一定期間が経過すると能力が低下するため、順次、後継系統を開発します。3品種のうちデュロック種「アイリスナガラ」の後継系統豚の開発は、2016年から始めました。

開発の途中で豚熱が発生し、やむを得ず当場のすべての豚を殺処分して中断しました。しかし事前に保存していた凍結受精卵を使って育種を再開し、このほど産肉能力が向上した「アイリスD2」が完成しました。

デュロック種の新系統豚「アイリスD2」により、三元肉豚の枝肉格付けの向上や養豚農家の経営安定が期待できます。

(畜産研究部)

今後のGA（ジベレリン）の登録拡大に期待！！
 ～「シャインマスカット」の作業軽減に秘策～

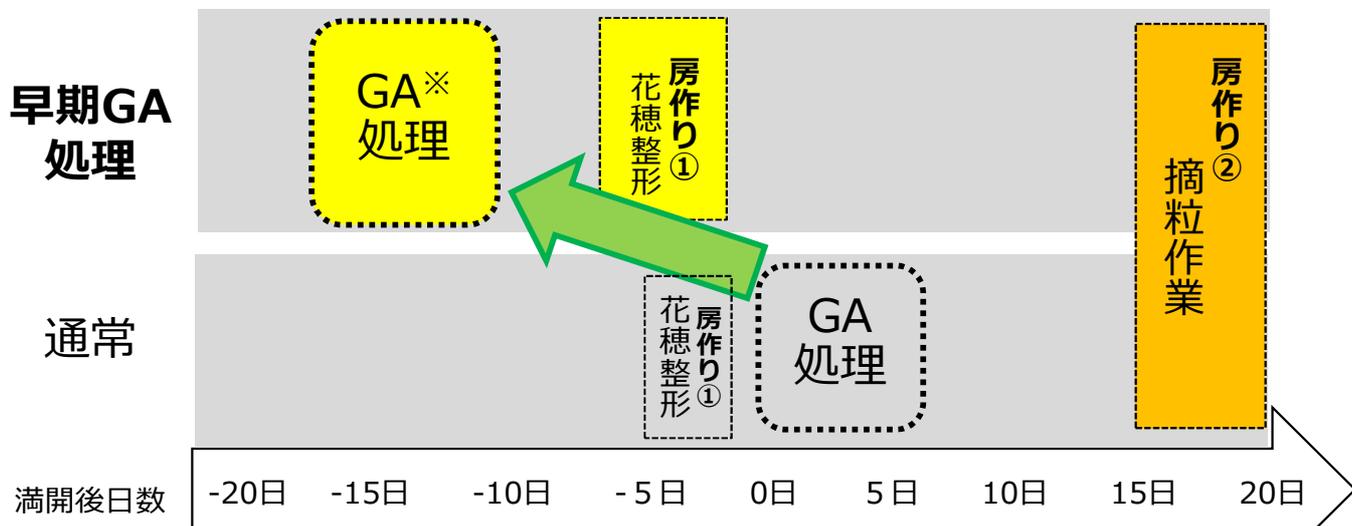


図1 開発した新しい作業体系

※GA：ブドウの種なし処理に必要な植物ホルモン



写真1 早期GA処理を実施した花穂

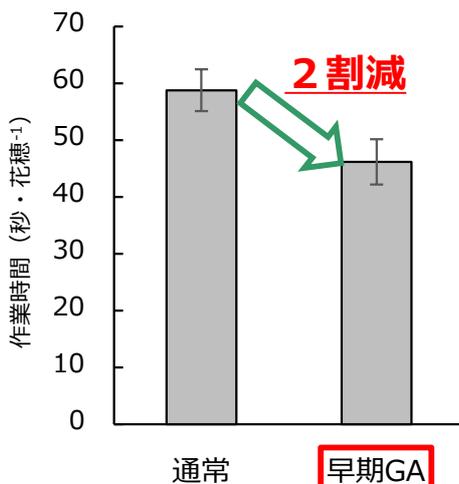


図2 房作り作業全体の作業時間の比較

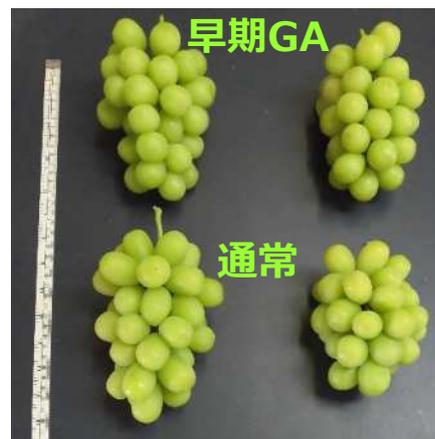


写真2 早期GA処理と通常処理のブドウ房の外観は同等

ブドウ品種「シャインマスカット」の種なし栽培は、房作り作業に労力がかかることが規模拡大の妨げの一つとなっています。そこで、他品種で実用化されている早期GA（ジベレリン）処理技術を「シャインマスカット」に応用し省力的な作業体系を開発しました(図1)。

早期GA処理は、通常は満開後に行う処理を満開前に行うため花穂の長さが伸長し、花穂整形や摘粒作業がしやすくなります。また、房作り

作業全体の作業時間が通常より2割減少し(図2)、ブドウ房の外観と果実品質は通常処理の場合と同等でした。

現在、この技術によるGAの使用方法は「シャインマスカット」での登録がなく使用できませんが、2027年作からの登録適用を見込んでおり、登録後に新体系を活用することで「シャインマスカット」栽培の作業軽減が可能となり、規模拡大が期待されます。(園芸研究部)

本研究の一部は公益財団法人日本植物調節剤研究協会の委託試験で実施しました。

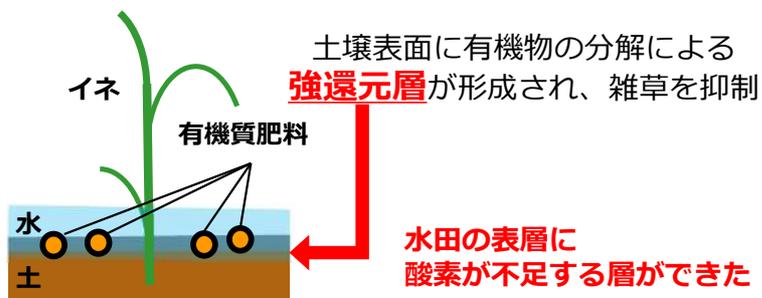


めざせ！水稻の有機栽培！

～有機質肥料を用いた水田抑草技術を検証～



使用した有機質肥料

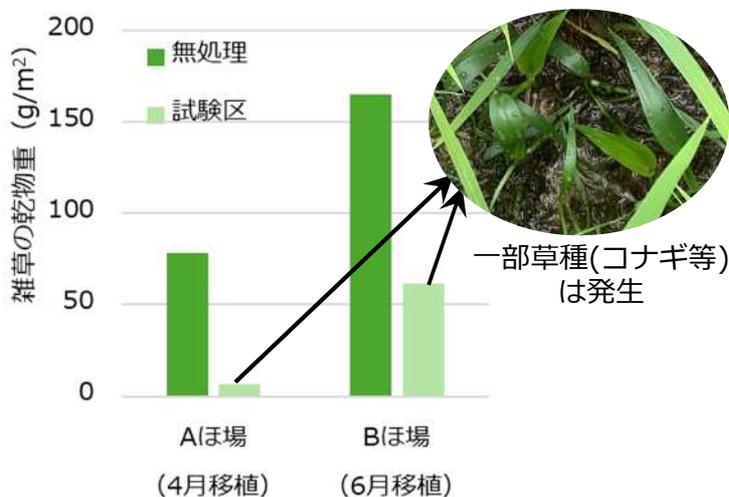


雑草を抑草する仕組み



水田から採取した田面水

試験区の水田の濁りの様子



中干し時の雑草の発生量 (2023、2024年の平均値)

水稻の有機栽培では、雑草管理が大きな課題となっています。そこで、省力的で抑草効果が高いとされる有機肥料を用いた抑草技術を検証しました。

本試験は、2023年と2024年の2か年、それぞれ4月移植と6月移植で、魚粉主体の混合有機質肥料を使用し、移植直後のほ場に60～80kg/10a散布した試験区と無処理区の雑草の発生量(乾物重)を比較しました。

その結果、試験区では微生物による有機物の分解により田面の表層の還元が促進されたことや水の濁りが強くなったことにより、雑草の発生や生育が抑制されました。中干し時の雑草の発生量は無処理区より減少しました。

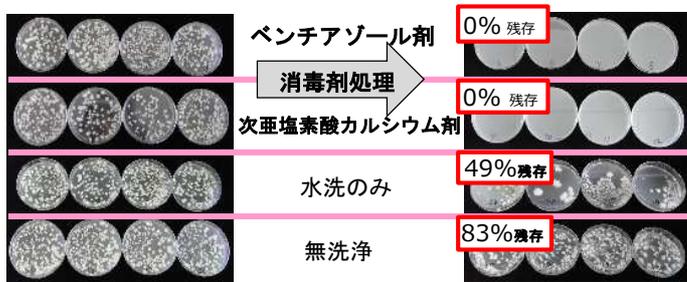
なお、コナギ、ホタルイなど一部草種では生育は抑制されたものの、発生はみられました。このため、除草機の併用等、十分な防除効果が得られる体系の確立に向け、さらに検討を進めます。(作物研究部)

カーネーションの萎凋症状の原因菌に 資材消毒が効果あり！

県内で、土壌消毒や農薬散布を実施してもカーネーションの萎凋症状が発生する事例が続いており、安定生産に影響を及ぼしています。

現地調査の結果、主な原因菌は *Fusarium oxysporum* と特定できました。さらに、土壌だけでなく資材についた土ぼこりにも菌が付着していたことが確認できました。

そこで、資材消毒剤の効果を確かめたところ、水洗のみでは落としきれない菌も100%除去できることが明らかになりました。(環境基盤研究部)

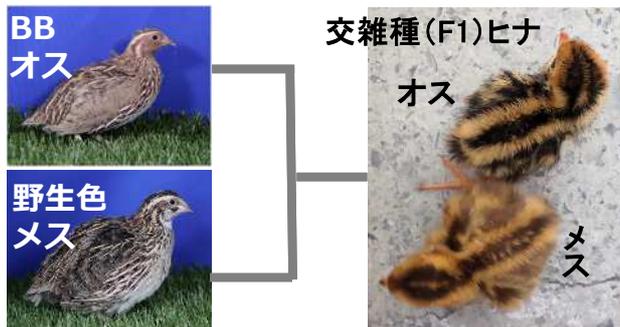


資材消毒剤の効果

ウズラで全国初！ オスの育種改良に取り組んでいます

ブラウン系統のウズラ(BB)は、全国で当場のみが維持・改良しています。BBオスを交配に使うと、交雑種(F1)のヒナは雌雄で羽色が分かれ、鑑別が容易になります。

この特徴は、BBオスを使うことで発揮されるため、当場ではさらに、BBオスの繁殖能力を強化する育種改良を開始しました。オスに焦点を当てた改良は全国で初めての取組で、2034年度までの完成を目標とし、完成した後は生産現場への譲渡を予定しています。(畜産研究部)



BBオスを用いた繁殖によりできたF1のヒナ

「あいちの抹茶」をさらに美味しく！

世界的な抹茶ブーム等を背景に、抹茶の原料である「てん茶」の産地間競争が激化しています。県外産との差別化を図るため、当場では品質向上技術の開発に取り組んでいます。

お茶は新芽の生育期間に日光を遮ると、うま味が強くなります。本県では遮光の方法として、茶樹を囲うように設置した棚に黒色寒冷紗を2枚広げる「棚2重被覆」が主流です。これに寒冷紗を1枚追加し「棚3重被覆」を行うことで、お茶のうま味成分のアミノ酸含有量(通常約4%)が、平均0.5%向上することが明らかになりました。



棚3重被覆と棚2重被覆
茶園の様子と比較

あいちの抹茶

「あいち農業イノベーションプロジェクト」 ～研究の種になる新しい取組を開始～

愛知県が民間企業や大学などと連携して取り組んでいる「あいち農業イノベーションプロジェクト」の種(シーズ)を作る研究を新たに始めました。

今年度は、ドローン散布に適した遮熱剤の開発や中型哺乳類向けの獣害対策など、現場の困りごとに対応した8課題を選定し、社会実装の基礎となる研究を1年間進めました。

このうち4課題が民間、大学などとの共同研究に繋がり、次年度以降は、商品化やサービス構築に向けて本格的な研究開発を行います。



ドローンを使った
農業ハウスへの遮熱剤散布

当場では今後も農業現場の課題解決につながる研究を選定し、プロジェクトの種づくりに積極的に取り組めます。(研究戦略部)

本研究は「あいち農業イノベーションプロジェクト」で実施中です。